

夢

mom θ ω θ @ ヤンデレ狂

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

夢って怖いよね。

初挑戦テイストの作品です。

夢

目次

夢

夢を見た。

ふわふわと、ゆったりと墜ちていく夢。

屋上から飛び降りた私を、地面が待っている。

そんな夢。

ふかふかのお布団から落ちたところで目が覚めた。

私はどこでも眠ってしまう。

起きた時、自分がどこで寝てしまったのかわからない時もある。

朝、起きれない時もある。

独り暮らしだから、私を起こす人もいない。

ふわふわ漂うような、不思議な感覚の中で私は眠ってしまう。

起きなきや。嫌。まだ寝ていたい。

でも、起きなきや。寝てたい。

夢を見た。

屋上に私もう一人いる夢。

もう一人の私にはこやかに手をふっている。

「さあ、ずっと眠って。この身体は私のモノよ。」

起きなきや。起きなきや。起きなきや。起きなきや。起きなきや。

起きなきやつ！

もう一人の私はとんとと、私を突き落とす。

ふわふわと、ゆつくりと墜ちていく。

起きたら、先生が呆れた顔で私を見ていた。

ばしやばしやと水で顔を洗う。

なんで、こんなに眠いのだろう。

目の前の鏡を見つめると、鏡の中の私がにんまりと微笑った。

眠りたくない。

私はカフェインをとるようになった。

それでも、うとうとしてしまう。

夜、裁縫中にうとうととしてしまったせいで、針で左手の人指し指を突いてしまった。

ぷくつと紅い丸が広がり、つつつと指から滴り落ちる。

ああ、なんて綺麗なんだろう。

眠くなり、針を落としてしまう。

気が付けば、自分の部屋のベッドに寝かされていた。

おかしい。

私を動かしたのはだれ？

ふと、鏡を見ると、にこやかに笑う私が出た。

「さあ、その身体を頂戴。」

私は気を失うように、眠ってしまう。

また夢を見る。

もう一人の私が楽しそうに鏡を割る。

割れた鋭い欠片を手に持ち、くるりところちらの方へ向くと

「じゃあね。身体、ありがとう。」

ぐざりと、私を刺した。

夢なのに痛い。

痛くて、痛くて。

目が覚める。

「あれ？」

全ての鏡が割れて、なくなっていた。

手のひらは傷だらけ。

鏡が割れたのは、夢の中でだったはずなのに……？

自分の身体に触れると、嫌になる程に冷たい。

まるで死者のような冷たさだ。

こんなの私じゃない。

私の身体はどこ？

私ノ身体ハドコ？

冷たい身体を抱き締めながら泣き出す。

私の身体をかえして。

かえして。かえして。かえして。

ドアが開き、もう一人の私がいんまりと笑う。

「ありがとう。これで…アナタは用済みよ。」
ぱたんとドアが閉まる。

私は立ち尽くした。

絶対に許さない。

目が覚めて、また夢を見ていた事に気が付く。

手のひらに傷なんてなかった。
鏡も割れていない。
ほっとして、鏡を見る。

「今度こそ、身体ヲ頂戴。」